



## 文部科学省は 反省している



- 当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況も見られる。
- 総合的な学習の時間において、補充学習のような専ら特定の教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、運動会の準備などと混同された実践が行われたりしている例も見られることや学校間・学校段階間の取組の実態に差がある状況を改善する必要がある。

- 当初の趣旨・理念が必ずしも十分に達成されていない状況も見られる。
- 総合的な学習の時間において、補充学習のような専ら特定の教科の知識・技能の習得を図る教育が行われたり、運動会の準備などと混同された実践が行われたりしている例も見られることや学校間・学校段階間の取組の実態に差がある

- ・理念が伝わっていない
- ・状況を改善する必要がある

## 伝えたい趣旨、 理念って何？



### 総合的な学習のねらい

- 変化の激しい社会に対応する
- 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる



「知識基盤社会」の時代

- 持っている知識だけではダメダメ
- 思考力・判断力・表現力が必要

### さらに・・・

- 体験的な学習に配慮しつつ探究的な学習を行う

「基礎的・基本的な知識・技能の定着」  
「これらを活用する学習活動」



教科で行うことが前提

じゃあ、どうして  
時数が減ったの？



### 教科と総合の役割分担

これまで総合で身につけていた力は、  
教科でつけるようになる

例

- 観察・実験，レポートの作成，論述など知識・技能の活用を図る学習活動を発達段階に応じて充実（各教科 改訂の経緯）
- 情報収集や情報発信の手段としてコンピュータや情報通信ネットワークを活用する機会を設ける（国語 解説）

### 教科と総合の役割分担

例

- コンピュータのプレゼンテーションソフトなどを利用して発表することなども考えられる（国語 解説）
- 思考力，判断力，表現力等を育成するために・・・言葉，数，式，図，表，グラフを用いて考えたり，説明したり，互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする（算数）

総合に取り組むときには、これらの力が身に付いていることが前提。

「生きる力」に  
ぶれはない



70時間は、探究的  
活動のための時間



### 総合的な学習の時間に気をつけること

- 体験的活動が伴うこと
- 調べてまとめて伝える活動を含むこと（学習が個別化していること）
- 教科で身に付いた力を活用すること
- どんな力が高まるかを考えておく（評価基準）
- 今日的な問題に触れる（スコープ）

総合で高まった力が、教科にフィードバックする

- ・昔は、総合的な学習がなくてもうまくいったけど・・・。
- ・新しい知識や技能を身につけるのは結構大変・・・。

### 某メーカーの不祥事



期限切れの原材料でケーキを作った

- 職人が判断して決めた
- それまでも、ずっとそうしていた
- 味には問題がなかった

↑  
社会が変わった  
法律が変わった

### 教師は専門職



例えば、

**最新の専門知識がない医者に  
皆さんはどう反応しますか？**

### というわけで



子供たちは、われわれよりも  
さらに進んだ情報社会に生きる

↓  
新学習指導要領の意志をくんだ総合のカリキュラムを考えましょう

